

協会から市民の皆さんへ

冬の市民生活を守るためになくてはならないものとなった除雪事業（雪対策事業）。しかし、雪対策を取り巻く環境は経済・社会情勢の急激な変化によって厳しさを増しており、さまざまな課題を抱えています。

雪対策の課題 作業効率が落ちています

- ・路上駐車が作業の支障になっています。
- ・駐車場や屋根などから道路への雪出しがあります。
- ・気象の低迷などから運搬排雪に必要なダンプトラック台数が減っています。



作業の支障となる路上駐車

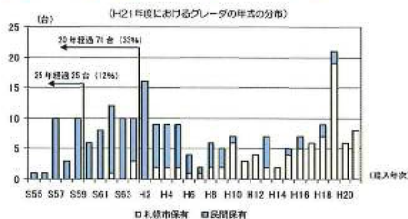
雪対策の課題 雪たい積場が遠くなっています

- ・新たな雪たい積場の確保が難しい状況にあります。
- ・雪たい積場が郊外化しています。
- ・雪たい積場の多くが借地であり、所有者の利用計画により撤退を余儀なくされるなど、継続利用が難しくなっています。



雪対策の課題 除雪作業の担い手や機械が減っています

- ・除雪事業の主な担い手である建設業の倒産や廃業、撤退が増えています。
- ・除雪従事者の高齢化が進んでおり、後継者不足が懸念されています。
- ・除雪事業者の経営体力低下などから、保有する除雪機械の更新が進まず、除雪機械の老朽化が進んでいます。



みんなで支えよう雪のまち札幌

冬の市民生活ルールとマナー

①玄関前の雪処理はご家庭で

除雪後の玄関前や車庫前の雪処理は各家庭でお願いします。



②路上駐車はやめましょう

作業の支障になり、除雪できなくなる可能性があります。また、車に傷を付けてしまう危険もあります。



③道路への雪出しはやめましょう

道路幅が狭くなったり、でこぼこになったりして交通事故や渋滞の原因になります。



④ごみ出しは、収集日の朝に

除雪前にごみを出すと、除雪時にごみが雪に混ざり、その雪が排雪されて河川などを汚す原因になります。



札幌市除雪事業協会だより

発行/札幌市除雪事業協会 〒060-0032 札幌市中央区北2条東13丁目25-19 マジェスティーズ札幌403 ☎206-9457 FAX206-9458



持続可能な除雪体制の構築に向けて

札幌市
市長 秋元 克広



「市民の安全」こそ除排雪事業の使命

札幌市除雪事業協会
会長 乳井 文夫

札幌市除雪事業協会の会員の皆様におかれましては、日頃より札幌市の雪対策事業に多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

会員の皆様におかれましては、多様化する市民ニーズや社会情勢の変化に対応した除雪体制を構築し、これまで一貫して、厳しい気象条件のもと、大変過酷な業務を担っていただき、心より感謝申し上げます。

昨年度につきましては、1月下旬まで記録的な大雪に見舞われた一方、その後は暖冬に転じるなど、対応の難しい気象状況でありましたが、迅速かつ適切な除排雪作業にご尽力いただき感謝申し上げます。市民対応の第一線で様々なご苦労とされたことと拝察いたしますが、皆様のご協力のもと、安全な市民生活が確保されたものと考えております。

さて、札幌市では、市民・企業・行政の協働による持続可能な雪対策に取り組んでおりますが、今後は更に、魅力と活力にあふれた暮らしやすいまちづくりに向けて、除排雪体制のレベルアップを図っていきたく考えております。

今年度の新たな取り組みとして、交差点排雪の強化を行い、これまで行ってきた幹線道路の排雪強化やバス路線の雇員の確保などと併せて、冬期交通の円滑化や安全確保に努めてまいります。

施工体制面では、会員の皆様のご協力のもと、人員・機材の確保により、今冬の作業の見通しがたつたところであり、市民の皆様に対して、適切な情報の提供を行ってまいりたいと考えております。

最後になりますが、雪対策事業に対する皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、これからの札幌市除雪事業協会の益々のご発展と皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げます。ごあいさついたします。

今年も冬本番を迎え、本格的な除排雪作業が行われる季節となりました。札幌市除雪事業協会では、厳冬期に向け除排雪作業の安全について、その決意を表明するとともに、関係各位にご協力をお願いし、総ぐるみで除排雪作業を推進し、併せて、市民の皆様のご協力をお願いいたします。

さて、昨シーズンを振り返りますとシーズン全体の排雪量は昨年並みであったものの、降雪量は数年に一度の少雪でありました。しかし、1月下旬までは記録的な大雪、2月からはほとんど降雪がないという異常気象であり、その対応が非常に困難だったシーズンといえます。除雪事業は降雪の有無に関わらず、市民の交通・経済活動を確保するためにシーズン中は万全の体制で待機していなければなりません。そのため、人員の確保や設備の維持に費用が発生するところですが、数年前に人件費や設備の損料の最低保障が引き上げられたことが、昨シーズンの少雪を乗り切ることにつながったと少し胸を撫で下ろしているところです。

今年度から市長の公約通り、交差点の排雪強化が行われます。われわれ事業者の規模が縮小しているなかでの新たな市民サービスであり、排雪トラックの確保などさまざまな課題はございますが、交差点の排雪強化は市民の安全につながる取り組みであり、協会としても市と協働を重ね円滑かつ効率的に事業を遂行できるよう協力してまいりたいと考えております。

これから本格的な除排雪作業が始まります。市民・行政・企業の三者が連帯をより一層深め、それぞれが担う雪対策の役割を再度確認して頂きたいと願っています。市民の皆様には、冬の生活ルールとマナーのご理解とご協力をお願いいたします。最後になりますが、除排雪作業の安全及び関係各位のご健勝を御祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

2014-2015年 協会のできごと

■マルチセンター長勉強会 (2014年12月10日)

パートナー排雪の夜間実施の浸透を

23地区のマルチセンター長が一堂に会し、最新情報を共有して連携を深めることを目的に毎年開催している勉強会を12月10日に開きました。勉強会の冒頭、乳井会長は、「ダンプトラックが少ないなかで、パートナーシップ排雪が遅れるような地区があれば、協会として応援の調整をしていきたいと考えている。そのためにも、雪の少ない地区は早めに終わらせる形でお願したい」と協力を求めました。

議事では、安全費（ガードマン）の算出方法を確認したほか、パートナー排雪の夜間へのシフトについて議論。協会側が「雪対策室からの指導だけでなく、マルテとしても町内会に打診するなど協力を仰いでほしい」と呼びかけました。手稲区北地区ではすでにパートナー排雪の3分の2を夜間に実施。同マルチセンター長は、一部で苦情はあったものの効率よく作業できたと報告しました。

また、安全管理とトラブルの防止につながるドライブレコーダーについて、協会として各マルチに浸透を図る方針を示しました。勉強会では装置を実際の除雪機械に取り付けて試験走行した動画を見ながら、導入効果を確認しました。



■除雪機械技能習得講習会 (2015年2月2日)

除雪機械の操作技術、次の世代へ伝承

市と協会は東区のモエレ沼公園駐車場で講習会を開き、各マルチの若手オペレーター57人が機械に同乗したベテランオペレーターからの指導・助言を受けました。

この講習会は、オペレーターの高齢化で担い手不足が懸念されるなかで後継者確保や技術継承につなげていこうと企画されたもので昨年に続き2回目の開催となりました。今回は時間的余裕のなかった昨年の反省を生かし、午前と午後に分けて実施し、1人あたりの受講時間は昨年の倍以上を確保できました。

講習でショベルを操作した三道工業の片岡栄司さんは、「雪の寄せ方や段差部分でのブレード操作などを的確にアドバイスしてもらえた」と手応えを実感。今冬が初めての出勤となったシンコー建設工業の三浦義貴さんは小型ロータリーに乗り、「これまでの操作をベテランにチェックしてもらえて、とても参考になった」と振り返っていました。

27年度も3回目となる講習会の開催を計画しており、これまで官貸車のみでしたが企業所有の除雪機械にも対象を広げる予定です。



■道路維持除雪センター長意見交換会 (2015年5月25日)

官貸車の点検・整備の徹底を要望

シーズンを終えた雪対策事業での課題や問題点を抽出し今後の体制充実に活かすため、23地区のセンター長が意見を交換し、市建設局の担当者に意見・要望を伝えました。

今回は官貸車や社会資本整備総合交付金の書類作成などに関する負担増のほか、新市長が公約に掲げた「交差点の排雪強化」についての意見が集中しました。官貸車についての議論では、稼働開始直後から故障が散見されたことから市に対して点検・整備の徹底を要望しました。また、夜間・休日の緊急連絡体制構築を求める声も上がりました。書類作成については、路線数の増加にともなって作業状況写真の提出を含め専従スタッフを置かなければならないなど企業負担が増していることを指摘。市長公約の「交差点の排雪強化」では、排雪量の増加が見込まれるなか、オペレーターやダンプの台数確保が課題になるのではないかと懸念されました。

協会からは4月に札幌市雪対策室に対して、日当たり設計数量の見直しや、安全費における交通誘導員を実人数で清算することなど10項目を要望したとの報告がありました。



■代表者懇談会 (2015年6月16日)

実態に即した設計単価を要望

昨年度の道路維持除雪業務の改善事項を今後に反映しようと、協会の会員企業の経営者ら123人が札幌市雪対策室の担当者と議論しました。この懇談会は、地域ごとに異なる除雪の課題などを共有し、今後の体制強化につなげることを狙いとしており毎年開催しています。

この日の会合は、協会が4月に提出した改善要望事項に対して市の担当者が回答する形で進行。排雪業務全般に関して、日当たり設計数量を実態に合うよう見直すとともに、交通誘導員を実人数で清算してほしいとの要望に対し、市は単価改定的前提となる作業調査時期を早めるよう検討すると答えました。

このほか、秋元市長の公約を実現する形で今シーズンから取り組む「交差点の排雪強化」については、1月下旬から3月上旬を想定し、各マルチごとに専属作業班を2班程度編成すると説明。積み込み機種やダンプの確保、交通誘導員の人員などさまざまな課題が想定されるが、今後区と詳細な部分を話し合いながら円滑に進めていくと伝えました。



■定期総会 (2015年8月7日)

乳井会長が3期目続投

札幌全日空ホテルで開催した2015年度定期総会では、任期満了に伴う役員改選で乳井文夫会長（児亜興業）の3期目続投を決めました。

今期の事業計画では、除雪機械オペレーターの技能向上や除排雪作業現場の安全推進に取り組むことが確認されました。

乳井会長は札幌市が実施した夏冬一体化に関するアンケート調査で、多くの会員企業が夏冬一体化に賛成し、複数年契約については支払い条件の変更がない限り反対との結果が出たことを紹介。

「除雪体制の一層の安定化に向け、協会としても市に働きかけていきたい」と述べました。

役員の改選では理事23人、監査は2人を選任し、互選で乳井会長のほか副会長の内沼勝氏（アイケン工業）、林義雄氏（道路工業）の留任も決定しました。会員数は7月1日までに2社が退会し計211社となりました。

